

は　じ　め　に

平成6年度の年報が出来上り、お届け出来ることを嬉しく思います。

この年報には、平成6年度における私共の仕事ぶりが、かなり詳細にまとめられています。必ずしも満足すべきものばかりではありませんが、所員の皆さんの努力に感謝いたします。また、手前みそになりますが、この近年、年報の内容が充実してきたと思います。年報編集委員の皆さんの隠れた努力を多といたします。特に今年から、従前のB5版からA4版に変更するに当たって種々困難な問題がありました。併せて、感謝いたします。

平成6年は、まれにみる酷暑と少雨の夏でした。環境試料の採取や測定成績の解析に多々苦勞があったものと思いますが、貴重な体験と貴重な成績の集積が出来ました。その辺の事情を汲みとって頂ければ幸いです。

私事で恐縮ですが、昨年から科学技術庁にある科学技術会議に新設された地域科学技術振興部会の委員としてご指名を受け、会議に参加いたしました。

先般の会議で答申案もほぼまとまり、いずれ一定の手続の後に、基本指針として皆様のお目にふれることもあろうかと思えます。

地域における科学技術活動の活性化に関する基本的方向と方策が議論の中心となっていますが、その議論の中で、いろいろな事を学び、また、意を新たにすることがありました。

地域科学技術振興の最も基本的な要素は「人」であり、従前の視点でやや欠けていた事は、地域社会を構成する住民一人一人が科学技術の重要性を認識するという事です。従前から私共が掲げてきた「開かれた研究所」への努力を更に推進していかなければならないと痛感いたしました。

この年報も10巻を数えることになりました。この10年間、研究所を取りまく環境は随分変化しました。更に平成9年4月の地域保健法全面施行に向けて、大きく変化していくことでしょう。私共は、この大きな波を乗り越えていかねばなりません。

皆様のご指導、ご助言を期待しております。

平成7年11月

新潟県衛生公害研究所長　上　村　桂